

別記様式(第5条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称		令和元年（平成31年）第10回定例会
開 催 日 時		令和元年9月25日（水） 午前 9時30分から 午前10時57分まで
開 催 場 所		福津市役所 本館2階 庁議室
委 員 名		(1) 出席委員 柴田教育長、藤井委員、青木委員、 半澤委員、今村委員
所 管 課 職 員 職 氏 名		榊教育部長、重富教育部理事兼教育総務課長、神山学校 教育課長、八尋郷育推進課長、堀田文化財課長、永松主幹兼指導主事、伊澤指導主事兼教育指導係長、藤岡指導主事兼教育指導係長、笹田総務企画係長、松本
会 議	議 題 (内 容)	・議案第27号福津市幼稚園条例施行規則を改正することについて ・議案第28号福津市教育評価委員の委嘱について ・報告 ・その他
	公 開 ・ 非 公 開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非 公 開 の 理 由	
	傍 聴 者 の 数	2人
	資 料 の 名 称	
会 議 録 の 作 成 方 針		<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録
		<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録
		<input type="checkbox"/> 要点記録
会 議 録 署 名 委 員		柴田教育長
		青木委員
そ の 他 の 必 要 事 項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 日程第1 開会の宣言

柴田教育長：皆さん、おはようございます。第10回の定例の教育委員会を始めさせていただきます。直ちに会議を開きます。本日の議事日程はお手元に配付のとおりでございます。

2 日程第2 会議録署名委員の指名について

柴田教育長：日程の第2、会議録署名委員の指名についてです。規則第16条の規定に基づき、本日の会議録は私、柴田と青木委員で確認、署名することといたします。よろしくお願いいたします。

3 日程第3 議案第27号 福津市立幼稚園条例施行規則を改正することについて

柴田教育長：それでは、日程の第3、議案第27号福津市立幼稚園条例施行規則を改正することについて。これを議題といたします。

事務局に提案理由の説明を求めます。

神山学校教育課長、よろしくお願いいたします。

神山課長：おはようございます。

議案第27号の福津市立幼稚園条例施行規則を改正することについてでございます。

最初に提案理由の説明をさせていただきます。9月議会におきまして、福津市立幼稚園条例を改正させていただいております。その条例が9月21日に公布され、10月1日から施行されることになっております。それに伴いまして、この条例の施行規則を改正する必要がありましたので提案するということでございます。

福津市立幼稚園条例の今回の改正につきましては、子ども・子育て支援法の一部を改正する法律が10月1日から施行され、いわゆる、幼児教育・保育の無償化が実施をされることに伴う改正でございました。条例の中におきましては、保育料等に関する規定がございましたので、入園料の5,000円、保育料の7,500円の規定を削っております。

また、それに伴う減免措置等の規定を削る改正をさせていただいております。

それでは、3ページの新旧対照表のほうで説明をさせていただきます。条例改正に伴いまして、この条例の施行規則につきましても、保育料等に関する条項が必要ありませんので、それを削る改正をさせていただきます。

第15条につきましては全て削る改正になります。現行の第

16条以降が繰り上げになります。現行の第16条につきましては、条例第7条の繰り上げ等に伴う条項の改正と、報告書の不要になりました様式等の削除をさせていただきましたので、様式第11号を様式第10号に繰り上げるということで、改正をさせていただきます。現行の様式第10号につきましては、保育料の減免に関する申請書でございましたので、必要なくなり、様式第10号を削りまして、現行の様式第11号が様式第10号に繰り上がる改正になります。4ページに改正後の様式第10号をお示ししております。

2ページに戻っていただきまして、一部を改正する規則案につきましては、附則におきまして、『この規則は令和元年10月1日から施行する。』としております。10月1日からの施行ということで、施行日を定めさせていただきます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

柴田教育長：10月1日から施行される幼稚園条例です。改正についての提案でございます。

何か御質問ありませんか。

ないようですので、質疑を終結して、採決をいたします。

議案第27号原案のとおり承認することに賛成の方は挙手をお願いします。

(全員賛成)

ありがとうございます。全員賛成であります。したがって、日程第3議案第27号福津市立幼稚園条例施行規則を改正することについては、原案のとおり承認されました。

4 日程第4 議案第28号 福津市教育評価委員の委嘱について

柴田教育長：それでは、日程第4、議案第28号福津市教育評価委員の委嘱について。これを議題といたします。

事務局に議案理由の説明を求めます。

重富理事兼教育総務課長、説明をお願いします。

重富理事：議案第28号福津市教育評価委員の委嘱について御説明をいたします。

教育評価委員の職務としまして一番大きなものは、今年の4月24日の教育委員会定例会で皆様に報告しました、『福津市教育委員会の事務に関する点検評価報告書』の評価です。昨年度は3名の方に評価をいただきました。昨年度は平成29年度の事業に対する評価でしたので、今年度は平成30年度の事業に対して、評価をいただくという形になります。

今年度委嘱をする3名の方の名簿を、次の6ページにつけております。1人目が森保之教授、2人目が伊藤克治教授、3人目が奥谷めぐみ准教授ということで、3名とも平成29年度と同じ方です。森教授は福岡教育大学教職大学院の先生で、伊藤

教授と奥谷准教授は福岡教育大学の先生です。ちなみに、主な仕事は先ほど申し上げたことなのですが、その他にも、教育委員会の事務の改善点の指摘や提案に関すること、福津市の教育行政の推進に関することなど、全般的な御意見をいただくということになっております。

以上がこの委嘱についての説明になります。よろしくお願いします。

柴田教育長：ありがとうございます。教育委員会の業務に関する評価をしていただくということで、いわば第三者委員でございます。この3名の方を予定しているということで説明がありました。

何かお聞きになりたいことはございますか。

青木委員どうぞ。

青木委員：3人とも同じ職種で、同じ大学から選ばれているということが気になりました。何か他の視点からの意見等があっても良いのではないかと思います。

重富理事：設置に関する規則の2番目になりますが、学識経験を有する者の視点からという条件があります。この評価委員の方々はその条件を満たしておりますので、このような形をとらせていただきました。しかし、青木委員が言われたような御意見もございますので、来年度については、もう少し検討を要するのかなと感じております。

青木委員：市の教育委員会では主に、幼稚園と小・中学校を管轄しており、大学とはまた違った視点もあるかもしれません。例えば小・中学校の校長先生の経験者など、そういう方でも資格はあるのですか。

重富理事：はい、あります。

青木委員：わかりました。

柴田教育長：他に質問はありませんか

今村委員どうぞ。

今村委員：この3人の方は、他の地域でも同じような教育委員会の評価の仕事などをされていたりするのですか。

重富理事：森教授は他市でもされていらっしゃるとお聞きしています。

今村委員：幾つか兼ねていらっしゃるということで、他の地域との比較ができる点では良いと思います。読ませていただきましたが、かなり詳しく評価をされており、すごいなと思いました。しかし、先ほど、青木委員からもありましたが、同じ大学の教授の方々なので他の大学の教授などの学識経験者がいらっしゃるというかもしれないですね。なかなか難しいと思いますが。

柴田教育長：森教授は福岡教育大学の教職大学院の教授です。少し分野が異なります。伊藤教授は教育大学の教授で、昨年までは、附属久留米小中学校の校長もされておりました。

榊部長：いずれにしろ、専門性が高いので、このように専門的な知識を有している方となり、お願いをできる方が限られてきます。た

だ、御指摘のとおり、専門領域が違うとはいえ、福岡教育大学だけだと、やはり偏った視点になることもあるかもしれません。先ほど理事も申し上げましたとおり、事務局のほうでも少し検討をさせていただければなと思っております。

重富理事：どのような人選をされているのか、他市の状況も確認しながら、来年の人選に向けて研究したいと思います。

今村委員：よろしくお願いします。

柴田教育長：ありがとうございます。ただ、昨年もこの3人の教授にさせていただき、経年比較の面ではいいと思います。昨年示された評価の課題が、どのくらい改善されているか、そういったことは、的確に指導していただけるかなと思っています。

伊藤教授については、神興東小学校と福岡東中学校の学校運営協議会の委員もされておりますので、学校現場のことにもかなり精通しております。

貴重な御意見をいただきましてありがとうございます。

この3名の評価委員の先生方を御承認いただける方は、挙手をお願いします。

(全員賛成)

全員賛成であります。ありがとうございます。議案第28号福岡市教育評価委員の委嘱については原案のとおり承認をされました。

5 日程第5 報告事項

柴田教育長：本日の議案は以上です。日程の第5、報告事項であります。

資料の7ページ、教育長の動静報告は、いつものとおり書面で報告をさせていただきたいと思っております。

それでは、管内教育長会の報告について、永松指導主事お願いします。

永松指導主事：9月20日に行われました管内教育長会議で出されました点について、御報告をさせていただきます。

今から3点御報告をさせていただきますが、それぞれの担当から報告をさせていただきたいと思います。

まず1点目です。私の方から説明をさせていただきます。不祥事防止対策の徹底ということで、8月28日付で県のほうから3件、それぞれ処分がおりています。わいせつ行為を行った小学校教員1名の懲戒処分。それから、酒気帯び運転をした中学校教員と高等学校教員の2名の停職処分です。その件を踏まえまして、9ページになりますが、教職員の不祥事防止ということで、県のほうから文書がおりてきております。この件に関しましては、明日の校長会の中で、教育長のほうからお話をいただき、各学校で再度徹底してまいりたいと考えているところでございます。

10ページからの資料に関しましては、以前の教育委員会でも添付された資料になります。このような形で学校が取り組んでいるというところの御説明の資料になります。

以上でございます。

藤岡指導主事：では、資料の17ページをごらんください。

私からは小学校のプログラミング教育の全面実施に向けた取り組みについて御説明させていただきます。紙面にありますように、来年度から新学習指導要領における小学校のプログラミング教育が全面実施されます。これは、国が、それに向けて各学校が円滑に実施できるような取り組みを御紹介しているページでございます。9月は国が示す推進月間ということで、いろいろな国の機関や、それに伴う機関の教材集の紹介、また、研修会を重点的に実施していくように示されています。

そこで、本市の取り組みの現状です。

まず、ハード面において、各小学校のパソコンが一新されました。そのパソコンの中にプログラミング教育の教材集を合わせてダウンロードしており、いつでも使えるようにしているところです。

また、先日9月5日に神興東小学校を研修会場にして、小学校と中学校の情報担当者、そして、教育課程もつくっていく上で主管教諭も合わせて、プログラミング教育の研修会を実施したところです。実際に先生たちにプログラミング体験をしてもらいながら、各学年に応じたプログラミングの授業をイメージしてもらうような研修会を行ったところです。中学校の先生におきましては、実際にプログラミング教育は技術科を中心に行われていますので、小学校でどのような授業を体験した子どもたちが中学校に入学してくるのかということも踏まえて、研修会に臨んでいただきました。

進んでいる市町村においては、実際に授業研修会を伴う研修会を実施しているところでございます。来年度からは、本市でも、そういった授業研修を通したプログラミングの研修会を随時実施していく予定でございます。今年度においては、福岡工業大学との連携授業を進めております。今年度中に福岡工業大学との連携授業によるプログラミング教育研修第2回を企画しているところでございます。非常に差し詰まった日程でございますので、先生方には授業イメージできるということを今年度のゴールにして、来年から本格的に取り組んでいけるようにしていきたいと思っているところです。

以上です。

伊澤指導主事：続きまして、28・29ページのキャリア・パスポートについてです。令和2年4月からキャリア・パスポートの実施が予定されています。29ページに図があるのですが、イメージとしましては、子どもたちが学年初めや学年末、行事の際に日々積

み重ねて記録しているものを、小学校から中学校、高等学校まで持ち上がっていきましようというようなものです。これまでは、各学校で子どもたちが自分のことを振り返ったり、将来のことを考えたりしておりました。これからは、自分のことをじっくり振り返って見通しを持てるようなものにしようということで、このキャリア・パスポートの実施がなされようとしています。大体各学年A4の用紙5枚までで一つのファイルに綴じていくようになっております。子どもたちが生き方をこれから見通せるようなものにということで、来年度4月からの実施に向けて、中学校区でどのようなものにするか、準備を進めていただく予定です。

以上です。

柴田教育長：管内教育長会は、その他にも、人事関係の議題もありましたが、指導主事から3つ報告をしていただきました。

1点目が不祥事の件です。これは教育委員の皆さんも御存じのように4月に粕屋郡の中学校で修学旅行中の飲酒が発覚して、5月には本市の職員が飲酒運転で逮捕されました。その都度、防止に向けての指導啓発を行ってきたのですが、8月にまた、県内の中学校と高等学校の教員が飲酒運転で検挙されました。また、飲酒の上で小学生にわいせつ行為を働いたということで、処分が発表されています。今後も綱紀の粛正については厳正に保持を図るために指導をお願いしたいということが一つです。

2点目が、プログラミング教育です。この時代の変化に伴って、ICT機材を使った授業を取り入れるということです。その操作方法を基礎・基本の段階で少しずつ学んでいきます。今の小・中学生が大人になったときには、このICT環境からは逃れられない時代がやってきますので、国から、着々と準備を進めるようにいられています。本市も粛々と環境整備をしているところでございます。そこに、県内の各種の整備状況の棒グラフをつけております。今年度は、本市の小・中学校全てにタブレットを配置しております。通常の学校であれば1学校に40台です。上西郷小学校と勝浦小学校が小規模校であるということで、上西郷小学校が30台で勝浦小学校が20台です。国の指針は3クラスに40台となっているのですが、それには追いついておりません。少しずつ環境整備を進めております。それと同時に、教員にプログラミング教育の研修も積ませる必要もあります。幅広い年齢層の教員がおり、ICT機材の活用にも慣れた先生も現場におりますので、そのようなところへの指導も必要となります。

3点目がキャリア・パスポートの制度です。これは、新しい学習指導要領でも、主体的・対話的・深い学びという言葉が使われておりますが、いわゆる体験をするだけして終わりではい

けないということです。インパクトがある体験については、記録を残し、自分の成長の跡をうかがえるというイメージで、キャリア・パスポートを今後とも、指導・支援していくように指示が来ています。粛々とこれも準備を進めていくということです。

教育のアプローチの仕方が、日々変わってきているということで、現場に浸透させていくということです。

何かお聞きになりたいことはございますか。

今村委員：小学校のプログラミング教育は新学習指導要領に載っているということで行われていると思うのですが、何年生を対象にするのですか。

藤岡指導主事：対象は全学年です。ただ指導の方法は、その学年によってそれぞれです。例えば5年生の算数の学習では、進んで曲がるという操作をコンピューターにプログラミングしていけば、多角形を書くことができると学習指導要領に記載されています。それ以外にも、プログラミングは必ずしもコンピューターを使って操作するだけのものではないという定義があり、要するに、指示を出すと、そのとおりに動くというものをプログラミングといい、教科の中にもそういう学習を取り入れたりするなど、いろんな事例があります。示されている教科としては、算数や理科、社会、総合的な学習などがあります。コンピューターを用いるから5、6年生対象というわけではないということです。いろんな学習の中で、1年生からそのようなプログラミングを体験するということが示されており、先生方も具体的なイメージが湧いていないと思いますので、国としてもいろいろな事例を挙げながら進めております。

今村委員：プログラミングの教科があるわけではなく、あくまで既存の教科の補助ということですね。英語も入ってきているので、先生方は大変だと思います。

柴田教育長：やはりそれぞれの専門家を配置する必要があると思います。ICTの支援教諭等ですね。しかし、なかなか人的措置は難しいものがあります。ICTに関しては、予算が伴うので、莫大な費用がかかります。従いまして、福津市も昨年度から5年計画で整備をするように、計画を立てています。その一環として、今までは、パソコンルームにデスクトップ型のパソコンを設置していたのですが、今年からは小学校全校に、持ち運びができるタブレット型のパソコンを設置しております。しかし、そのためには各教室にLAN整備をする必要があります。現在は持ち運び式のLANで対応しております。小学校は、将来に向けての基礎・基本の段階です。パソコンを使いこなせるようになりなさいというわけではなく、パソコンに、親しませながら、教育活動をおこなうということです。

それよりも、私は総合的な教育を大事にしてほしいと考えて

います。つまり体を動かす活動や、友達と共同して取り組む活動、助け合って取り組む活動です。義務教育の段階ですので、ICT教育を強く言いすぎるのではなく、幅広く総合的な学びの機会も必要ではないかと思います。ICTに興味がある子どもは、高校生や大学生になったときに、その分野を自分で選択してくれればいいと思います。小・中学校の段階は、やはり芸術に触れさせたり、スポーツに親しませたり、何か総合的にやってほしいというものがあります。

キャリア・パスポートも一つの例です。自分の体験をファイリングして、成長の足跡をしっかりと残していきなさいということです。これは小学校から高校まで使います。体験の積み重ねや、その間に考えたこと、あるいは、その間に会った人との学び、そのようなことをポートフォリオ的に積み重ねていきます。そういうことも準備をしていきます。

他に御質問ありませんか。半澤委員どうぞ。

半澤委員：キャリア・パスポートを準備するということですが、それは総合の時間などを使い授業の中で全員で同時に行うものなのか、三者面談等で先生と生徒で個別に行うものなのか、個人的に児童が家で行うものなのか。どのように求められているのでしょうか。

伊澤指導主事：基本的には教育課程内なので、学校行事などの体験活動の後や、学級活動で自分の目標を立てるところで、教室で一緒に書く使い方を行います。ただ、『お家の人から』などの欄をつけても良いことになっていますので、家に持ち帰り、お家の人に書いてもらうというような使い方も考えられます。

半澤委員：いろいろなやり方があるということですね。様々な体験をした中でどれを捨てて、どれを持って行くのか、吟味をするということが難しいと思います。それは子ども達の将来にも関わってくると思いますので。

伊澤指導主事：振り返りはその都度、たくさんするとは思いますが。何を残していくかというところを先生達が考えるところになると思います。

別の小学校から一つの中学校に進学する場合、小学校段階から同じ行事で記録を残す方が中学校になってから使いやすい、というような先行研究の例も出ています。

半澤委員：そうですね。違う小学校から同じ中学校になったときに、統一感がある内容の方が良いかもしれませんね。

柴田教育長：他に御質問はございませんか。今村委員どうぞ。

今村委員：子ども達は年度末に1年分の作文や教材等をたくさん持って帰ります。親の立場からすると、それが少し大変ではあります。

学校では1年間の学習が終わったら、大概子ども達に反省を書かせると思います。そこで、1年間の思い出しながら、単に振り返りを行うよりは、このキャリア・パスポートを用いて、自分で整理して、まとめる力をつけていくことは良いことだと

思います。

柴田教育長：体験活動は、必ず振り返りをして、自分がそのときどのような思いを抱いたかということを残していくことが重要です。その変化でその子の成長が分かってくることもあります。試験をするわけではないので、体験活動の評価はとても難しいです。

ところが、このようなキャリア・パスポートがあると、『この子は3年前にはこのようなことを思っていたけど、今はこのように考えているんだね。』ということが分かるようになります。

キャリア・パスポート実施の意図は、多くの捉え方があるとは思いますが。これから先の時代について考えたとき、情報が錯綜し、情報の収集はもちろんですが、それだけではなく、情報を必要に応じ選択し、活用していく力が必要になります。そのような力をつけるための基本的な教育活動といった捉え方もできると思います。

私も少年自然の家で長期の宿泊体験をさせるときは、このような振り返りを、ポートフォリオ的に積み重ねて、作らせていました。このようなことを今度からは、学校現場でも活用していくということだと思います。

他に御質問ございませんか。青木委員どうぞ。

青木委員：これは小学校から中学校、中学校から高校と持ち上がるということですが、先生がこれを管理するということですか。

伊澤指導主事：はい。基本的には学校で管理をします。

青木委員：卒業式のときに渡して、子ども達が次の学校に持っていくということですか。

伊澤指導主事：小学校から中学校は、学校から学校に渡すことはできると思います。中学校から高校は生徒に渡すということになっているようです。

青木委員：子ども達に渡したら、無くしたり、捨てたりする可能性もありますね。高校との連携も必要になってくると思います。私立の高校との連携の場合は大変かもしれませんね。私立の高校はキャリア・パスポートを実施するかどうかはそれぞれ異なると思います。せっかく中学校まで積み重ねていても、私立の高校に行った子ども達は、キャリア・パスポートの必要性がなくなる可能性も出てくると思います。12年計画で行うということですので、途中で挫折しないような取り組みが大事になってくると思います。

榊部長：あくまでも、目的は主体的な学びです。キャリア・パスポートは一つの手段ということだと思います。これはかなり労力もかかりますので、一気に進めるということは、恐らく難しいと思いますので、段階的に進める必要があります。

今村委員：英語教育も始まり、プログラミング教育やこのキャリア・パスポートも入ってきてとても労力がかかりますね。

青木委員：体験活動についても、たくさん実施するように言われていると思います。先生方も日頃と違うことをすることが増えてくると思うので、人的補助がないと厳しいと思います。

柴田教育長：体験活動についても、今はいろいろな捉え方があると思います。今年、福岡東中学校や津屋崎中学校を見ていたら、1年生に民泊をさせていました。そのような方針になっていました。大分や長崎の松浦の方に行き、4、5人ずつグループで民家に泊まらせ、魚釣りや農業体験をさせていました。私としては、そのような活動は、各家庭でしてほしいと考えています。このような宿泊体験学習は、教師と生徒が同じような活動をするところに絆が生まれると思います。民泊先に預けるということですので、行くときと帰るときだけ一緒に行動するということは、教師の負担としては軽くなります。しかし、教師と生徒の共有体験としては、少なくなります。宿泊体験学習というものは一緒に寝泊まりをして、先生と一緒に時間をたくさん持つことによって、教師と生徒の良い関係が育つ場合があります。明日、校長会があるのですが、そういうところを少し投げかけてみようかと考えております。民泊に預けることは、負担の軽減にはなるとは思いますが、結果、教師にとってプラスになるのかどうかを考えたとき、余りプラスにならないのではないかと私は思います。昔は久住の山の上に行き、一緒に食事を作ったりしていました。いわゆる困難体験や、力を合わせてみんなでやろう、この3年間頑張っていこう、というような目的がありました。

今村委員：質問です。その民泊は1年生だけですか。

柴田教育長：中学校1年生です。

半澤委員：学校によって異なりますか。

柴田教育長：校長の判断で、学校によって違います。学校長の学校経営の狙いがありますので、特色化があって良いとは思いますが。福岡中学校は夜須高原に行くようです。9月終わってから10月1日までのようです。

今村委員：職場体験もあるのですよね。

柴田教育長：2年生は職場体験や修学旅行があります。

青木委員：いずれにしても、昔と今とでは教育活動が異なるということを考えておく必要はあると思います。今までの固定概念で見ていくと、気づかされることがよくあります。

藤井委員：質問よろしいですか。話をさかのぼって申しわけないのですが、プログラミング教育を、全学年から実施することについてです。タブレットを使用するというので、そのタブレットが欲しくて、ゲームとかに走る子どももいると思うのですが、親として、健康管理の面で、視力の低下などが心配になると思います。そのような健康管理についても並行して、見ていただけるのかどうかをお聞きしたいです。

藤岡指導主事：プログラミング教育と健康管理については、まだ結びつけていなかったのですが、プログラミング教育の目的はゲーマーを育てるといったことや、プログラミングできる子を育てるということではありません。もちろんパソコンやタブレット等ＩＣＴ機器に触れさせますので、将来それを使った職業につく子どもも出てくるとは思いますが、あくまで、ＩＣＴを活用することは、手段です。従いまして、授業のイメージとしては、ずっとプログラミングに熱中しながら続けていくということではありません。自分が意図的に指示を出して、そのとおりに動くということを経験しながら、世の中にはそのようにプログラミングされているものが生活のどこにあるのかということに気づく、ということを経段的に行っていくものです。プログラミングを導入した授業の中で、必ずしもパソコンやタブレット機器を使うというイメージではないので、健康を害するということまでの懸念は、今のところあまり想定しておりません。もちろん、のめり込む子どもも出てくるとは思いますが、学校や家庭において、今後注意喚起を行うことは検討していくべきだろうと思います。

藤井委員：わかりました。

榊部長：恐らく藤井委員さんが言われているのは情報リテラシーのことだと思います。この情報リテラシーについては、当然ながら、プログラミング教育や情報化教育の中の一環として組み入れていく必要はでてくると思っています。

今村委員：プログラミング教育に関して質問があります。各学校におろす分の内容はどのようなものになっていますか。教材の選定や指導方法など、教育委員会として示している部分はあるのですか。もちろん学校の規模によるとは思いますが。

藤岡指導主事：教育課程の編成については、各学校に委ねているところがあります。しかし、授業のイメージは湧きにくいと思っておりまので、教育課程に盛り込んでいくときの視点については、研修等において示しております。まずは、国の機関がいろいろな教育課程の事例を出しているのを参考にしながら、１年目実施してみるということです。教育委員会としては、モデル校といいますか、教育課程や授業実践で、ある程度学校を選定しながら、いろいろな学校に広げていくようにしていきます。

今村委員：学校の実態に応じて、各学校で進めていくということですね。わかりました。

柴田教育長：現在の学校教育現場のいろいろな実情でございました。

では、９月議会の報告を榊教育部長よりお願いします。

榊部長：９月議会の報告です。

９月２日に開会し、９月２０日まで開催されておりました。報告をさせていただきたいと思います。

別添の資料に、9月定例会の一般質問ということで3人の議員さんからの質問をあげております。1ページ目が一般質問の内容でございます。次のページからは決算資料としての教育部関連のものでございます。

まず、一般質問について報告をさせていただきたいと思います。

1人目の下山議員さんからは、特別支援教育の今後についての質問でございます。決算資料の218ページに、平成30年度の特別支援教育総合推進事業に関する資料をつけておりますので、参照してください。下山議員さんからは、とりわけ小学校というよりも、幼児教育、保育所、幼稚園での特別支援教育の現状についての質問がっております。小学校での特別支援教育よりも幼児期における適切な支援のほうが、当然ながら効果的でありますし、その観点から、幼稚園、保育所の特別支援の現状について質問がっております。支援員の確保、特別支援学級の確保ということで、支援員の配置数、特別支援学級数については年々伸びております。当然ながら、就学相談件数も伸びております。それに伴いまして、ハード的、ソフト的なものの確保に関する部分が課題としてあるということで、適切な配置を考えておりますとお答えさせていただいております。

保育所や幼稚園のそれぞれの施設におきまして、特別支援の保育を展開しておりますが、今年度から保幼小接続推進協議会を設置しており、保育所や幼稚園から小学校への接続に向けて、情報交換等の仕組みづくりを協議会の中で展開をしているところです。今年度につきましては保育所、幼稚園につきましては、アプローチカリキュラム、小学校においてはスタートカリキュラムという基本的な考え方を接続推進協議会の中で検討をして、来年度以降、各施設の中でそのカリキュラムを具現化していくというような取り組みを進めているところです。

2番目の戸田議員さんからは、産業廃棄物処理場に対する住民の不安解消についてです。これも先月の教育委員会の中で報告をさせていただいておりますが、7月31日に臨時議会を開催しております。これは世界遺産の公有地化事業の関係で事業者からの用地買収契約でございます。可決に当たりましては付帯決議がついております。今後地元の勝浦地域と十分な情報共有と丁寧な対応を図ることということでの付帯決議がついておりますので、その一環といたしまして、産業廃棄物処理場の施設に対する住民の不安解消の観点からの質問でございます。この分につきましては、現在、教育委員会の中だけで対応できる案件ではございませんので、建設課やうみがめ課等、関連する部署で構成される連携会議で、様々な、地域の課題解決に向けての取り組みを進めているところでございます。

3番目の福井委員さんからの質問です。先ほど活発な議論を

いただいておりますが、学校教育におけるＩＣＴ学習環境の整備及び活用についてです。こちら決算資料の２２４ページと２２８ページに、平成３０年度における小学校、中学校でのＩＣＴ学習環境整備事業の成果報告を記載しております。今年度につきましては、小学校のパソコンをタブレット型パソコンに更新しております。これは平成２１年度以来の更新で、来年度は中学校の更新を予定しているところです。

今後の取り組みというところで、ハード的な部分とソフト的な部分があります。やはり、機器の整備については多額の予算が生じてまいりますので、ＩＣＴ機器をどのように活用していくのかも、同時に明確にしながら環境整備のほうに当たっていく必要があると考えております。昨年の１０月に教育の情報化推進計画を策定しております。先ほど、教育長から５年計画という話がありましたが、それは推進計画に基づいたところでございます。現在、各小中学校から教職員の代表で構成する教育情報化推進協議会を設けさせていただいておりますので、その中でどのような活用を図っていくのかを含めて協議を重ね、効果的な整備に取り組んでいければと考えているところでございます。

決算報告につきましては、この教育部の決算資料に基づきながら説明をさせていただいております。

また、９月議会では、補正予算を３件上げております。１件目は福間小学校の校舎増築に関するものでございます。今年度と令和２年度、継続費ということで補正予算を上げさせていただいております。福間小学校の校舎増築につきましては、トータルで５億１，２１０万円を計上しており、今年度につきましては、１億５，３６３万円を計上させて、可決されております。来年度につきましては、３億５，８４７万円でございます。

２件目につきましては、１０月１日からの幼児教育無償化に伴いまして、幼稚園の副食費に関するものでございます。副食費とは給食のことでございます。幼児教育無償化で幼稚園だけでなく、保育所も対象になっておりまして、これまで保育料の中に、給食費が入り込んでおりましたので、今回の無償化に伴って、給食費分をどうするのかということでございました。幼稚園についても、保育所との公平性を担保するということで、幼稚園の副食費に関して４５０万９，０００円を計上しております。

もう１件が、文化財課の発掘調査に関するものです。民間の発掘調査につきましては、完了いたしましたら、かかる経費を民間のほうから負担してもらっているのですが、その発掘調査について４２４万４，０００円を計上しております。これは歳入のほうでも民間事業者からの雑入ということで、かかる経費４

24万4,000円を合わせて可決をいただいているところです。

もう1点。条例改正の議案を2つ上げさせていただいております。1つ目は、議案第27号で御協議いただきました福津市立幼稚園条例施行規則に関連するもので、これのもとになる市立幼稚園条例の改正をさせていただいております。改正の内容につきましては、幼児教育の無償化に伴いまして、保育料等がもう必要なくなりますので、所要の条項の削除を含めたところでの改正です。

2つ目です。福津市立公民館条例を改正させていただいております。勝浦公民館の施設の老朽化に伴いまして、勝浦公民館を廃止しております。その廃止に伴いまして、公民館条例を改正しております。公民館の代替的な機能といたしまして、郷づくり支援室のほうで勝浦郷づくり支援拠点センターが12月から供用開始になります。

議会については、一般質問、決算、それと補正予算、それと条例改正に伴う議案の改正ということでございます。簡単ではございますが、9月議会の報告とさせていただきます。

柴田教育長：ありがとうございました。

議会報告についてお尋ねになりたいことはありませんか。

資料がたくさんありますので、よく御覧いただいて、改めてお聞きになりたいことがありましたら、問い合わせをお願いします。

それでは、次に、平成31年度福岡県学力調査結果について藤岡指導主事よりお願いします。

藤岡指導主事：失礼します。資料の30ページです。

前は、本年度4月に行いました全国学力調査の結果の概要を報告させていただきました。今回は6月に実施されました小学校5年生、そして中学校1年生、2年生を対象にした、国語算数、数学の2教科の学力調査の結果の概要です。これは市のホームページに公表をさせていただくものでございます。

31ページには、各学年の国語と算数及び数学の、福岡県の正答数を100としたときの本市の得点の割合を示しております。小学校5年生の国語や算数の中にも基礎と活用の2種類の問題があります。それぞれについて標準化得点を示しているところです。小学校5年生と中学校1年生の国語、算数、数学に関しましては、県と比較しますと、ほぼ同じか、若干上回っている結果になりました。中学校2年生の国語に関しては、県の平均を若干上回っておりますが、数学に関しては若干下回る結果となりました。

32ページは、同一集団の経年変化です。32ページの一番上の図は、現在の中学校1年生の子どもたちが小学校段階で受けてきた、学力調査の結果をもとにしたものです。中学校1年

生の問題は、小学校6年生までの内容です。今回の中学校1年生のテストのときに、若干右肩下がりになっているという結果から、6年生の学習内容が十分に定着していないのではないかとといった見方ができると思っています。今後の課題としては、小学校6年生の内容を十分に身につけていくとともに、小学校段階の内容の理解を踏まえた授業づくりが大事になってくるのではないかと考えています。

下の図は、現在の中学校2年生のものです。中学校1年生のときに右肩下がりで、下がっておりますが、これも先ほど申しましたように、小学校6年生の内容が若干身につけていなかったと考えております。中学校1年生から中学校2年生に関しては、右肩上がりに上がっておりますので、これは中学校での授業改善が有効に働いていると考えております。このまま中学校の授業改善が有効に働いていけば、来年度の全国学力調査では、さらに右肩上がりで上がっていくことは期待されると思います。

最後のページです。小・中9年間を通した『授業改善』による学力向上ということで、全国の調査でも、授業改善に取り組んでいる学校ほど、学力調査での正答率が高いということが明らかにされています。従いまして今後は、今年度の結果がどう、ということではなく、これまでの結果と比べて、この子ども達がどう変わってきているのか、という見方が大事だと考えております。小学校と中学校で学力向上プランを作成するときも、9年間で子どもを育てるという視点に立った作り方が重要であるということです。全国の先進校を見ていくと、合同研修会の際、小学校と中学校で一緒に学力調査の結果の分析を行っている自治体もあるようです。福津市としても、授業をお互い見合うという研修会も大事なのですが、そのように小学校と中学校で学力調査の結果を一緒に分析して、どんな授業づくりを小学校・中学校でそれぞれ実施していけばいいかと話し合う研修会もとても大事になってくると考えております。

このような方針に関しては、明日の校長研修会の中でもお示しして、小学校・中学校9年間で子どもたちを育てるという今後の取り組みを一層進めていくように考えているところです。

以上です。

柴田教育長：ありがとうございました。全国学力学習状況調査とは別に、福岡県の学力調査結果が行われておりまして、全国学力学習状況調査では対象外の学年を対象にしております。藤岡指導主事が言われましたように、経年変化を見きわめながら、小中を接続連携した、授業改善に取り組んでいくというのが福津市教育委員会の方針でございます。

何かお聞きになりたいことがありますか。

来月から市内の小・中学校の学校訪問を予定しています。こ

の授業改善に沿った授業が展開されているかというようなところもご覧いただき、各学校で御指導いただければと思っております。福岡東中学校は11月に学力向上推進拠点校事業の最終報告会があります。これは福岡県唯一の指定校ですので、かなりの人がお見えになると思います。ぜひご覧いただければと思います。

6 日程第6 その他

柴田教育長：それでは、日程の第6、その他、今後のスケジュールについて、併せて教育委員会の日程について笹田総務企画係長よりお願いします。

笹田係長：失礼します。34ページをご覧ください。

本日9月25日から10月31日までのスケジュールを載せております。教育委員の皆様に関わる部分を御案内いたします。

9月28日（土）、勝浦小学校の運動会です。

10月2日（水）、津屋崎小学校定期学校訪問です。集合時間は8時20分となっております。

10月3日（木）、福岡小学校定期学校訪問です。集合時間が8時30分となっております。

10月5日（土）、神興幼稚園の運動会です。

10月16日（水）、古賀高等学校組合教育委員学校訪問、総合教育会議が予定されております。藤井委員の出席をお願いいたします。

10月19日（土）、市内中学校の文化祭が各中学校において実施されます。本日、案内をお配りしている分です。

10月31日（木）、定例教育委員会です。本日と同じ庁議室で9時半より実施予定です。

また、各小学校の文化祭が10月の後半から予定されております。案内文書が集まり次第随時お送りしたいと思います。よろしく願いいたします。

以上です。

柴田教育長：教育委員会のスケジュールです。

それでは、本日予定されていましたが全てが終わりました。

7 日程第7 閉会宣言

柴田教育長：長時間ありがとうございました。これをもちまして第10回の教育委員会を終わらせていただきます。

お疲れさまでした。